ヲ處分スヘシ

「註」本條ハ郡役所又ハ市役所若クハ區役所ニ於テ選擧會ヲ開キ參觀ヲ求メタル者第六十九條ヨリ第七十三條マテ行爲アルトキハ其郡長市長又ハ區長之ヲ處分スルモノタル勿論タリ

第十二章　當選訴訟

第七十八條　各選擧區ニ於テ當選ヲ失ヒタル者當選人ノ當選ヲ無効トスルノ理由アリト認ムルトキハ當選人ヲ被告トシ第六十五條ニ掲ケタル當選人ノ姓名告示ノ日ヨリ三十日以内ニ控訴院ヘ出訴スルコトヲ得其ノ期限ヲ經過シタル後出訴スルモ其ノ効ナシ

「註」本條ハ當選人ノ出訴スヘキ場合ヲ示ス

當選人トナルモノニシテ其當選ヲ失ヒタルトキ即チ假令第六十三條ノ届出ヲ爲サヽルトキノ如キ其他種々ノ場合ニ於テハ當選人ノ當選ヲ無効トスルノ理由アリト認ムルトキハ其當選者ヲ相手取リ第六十五條ニ掲ケタル當選人ノ姓名告示ノ日即チ府縣知事ノ管内ニ告示シタル日ヨリ三十日以内ニ出訴スルヿヲ得其期限ヲ經過シタルトキハ出訴スルモ其効ナシトス即チ右ノ三十日出カ訴期限ナリトス

裁判管轄ハ控訴院ナリ故ニ大阪、兵庫、福井、金澤、和歌山、高知ノ各府縣ノ如キハ大阪控訴院ニ出訴スルモノナリ

第七十九條　原告人ハ訴訟ト共ニ保證金トシテ金三百圓又ハ之ニ相當スル公債證書ヲ控訴院書記局ニ預置クヘシ

「註」本條ハ第八十條ノ訴訟費用ノ豫備ノ爲メ之レヲ預ケ置クモノナリ是レ無資力者ノ漫リニ訴訟ヲ起スモノヲ防クモノトス

第八十條　原告人敗訴ノ場合ニ於テ裁判言渡ノ日ヨリ七日以内ニ一切ノ裁判費用ヲ納完セサルトキハ保證金ヨリ之ヲ控除シ仍足ラサルトキハ之ヲ追徵スヘシ

「註」本條ハ第七十九條ノ保證金ヲ要スル理由ヲ示セリ

保證金ハ裁判費ノ納完ヲ保證スルモノナリ故ニ敗訴シテ納完セサルモノハ右金ヨリ之ヲ控除ス其餘分アレハ之レヲ返却シ不足アレハ追徵スルハ當然タリ

人或ハ曰ク裁判ハ確定セサレハ之レカ費用ヲ納完スルノ義務生セス何ソトナレハ敗訴果シテ敗訴ナルヤ知ルヘカラスト

成程其裁判言渡ニ至リテハ第八十六條ノ如ク大審院ヘ上告ヲ許スヲ以テ尚ホ正當ノ裁判ヲ受クルノ權アルモ控訴院ノ裁判ハ之レ終審裁判ナリ大審院ニ上告スルニ係ハラス執行力ヲ有スルモノナリ殊ニ裁判費用ノ如キハ其裁判ニ對スル費用ナレハ之レカ上告スルト否トニ係ハラス納完セシムルヿ敢テ失當ニハアラサルナリ

第八十一條 同一ノ當選人ニ對シ二人以上ノ原告人訴訟ヲ爲シタルトキハ控訴院ハ一ノ裁判言渡書ヲ以テ各訴訟人ニ宣告スルコトヲ得

「註」本條ハ一事件毎ニ一ノ裁判ヲ言渡スノ例外ヲ示セリ

當選訴訟タルヤ一方ノ被告トナルハ必ス當撰人ニシテ其事件タルヤ民事ノ如キ千差萬別ナルモノニハアラス事實ハ常ニ一定シタルモノナリ故ニ同被告人ニ對シ二人以上ノ原告アリシトキハ一ノ言渡書ヲ以テ各原告被告人ニ宣告スルヿヲ得ヘシ

故ニ被告人ノ異ナルトキハ之レカ本條ヲ利用スルコトヲ得ス蓋シ對手人ノ異ナルノミナラス利害ノ及ホス處ノ人異ナレハナリ

第八十二條 審判中衆議院解散ノ命アルトキハ控訴院ハ其ノ訴訟ヲ棄却スヘシ

「註」當撰訴訟ハ其勝敗ニ依リ議員ノ資格ニ關係シ衆議院ノ位列權ニ關ス然レトモ衆議院解散ノ命アルトキハ爭ヒナキ正當ノ議員ト雖トモ解散セラレ總テ再ヒ撰擧ヲ行フモノナレハ好シ訴訟ニ勝ヲ制スルモ其勝ハ只名ノミニシテ實際議員タル資格ヲ解散ト共ニ失フモノナレハ實ニ其効ナキニ依リ本條ノ如ク棄却スルモノトス

第八十三條 原告人訴訟ヲ願下クルトキハ同時ニ其ノ由ヲ新聞紙又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ公告スヘシ

「註」是レ勿論ニシテ原告人ノ所爲ヲ世間ニ公告シ當選者ノ資格ヲモ共ニ判然スルカ爲メナリ

第八十四條 控訴院ハ當選訴訟ヲ審判スルニ當リ本訴ニ關係スル刑法又ハ此ノ法律ノ犯罪者ニ對シ直ニ處刑ノ言渡ヲ爲スコトヲ得但シ此場合ニ於テハ檢察官ヲシテ立會ハシムヘシ

當選訴訟ニ關係セサル場合ニ於ケル此ノ法律ノ犯罪者ハ所轄刑事裁判所ニ於テ之ヲ裁判ス

「註」本條ハ民事ニ於テ刑事ヲ言渡ス例外ヲ示シタリ

民事ハ民事訴訟ヲ審判スル處ニシテ刑事ニ關スルモノハ假令本訴ニ關係スルモ之レヲ刑事裁

判所ニ移シテ審判スルハ普通ノ原則ナリ然ルニ本訴之レカ例外ヲ設ケ處刑ノ言渡ヲ爲スハ蓋シ其當選訴訟ニ關係スルト此件審判ノ急速ヲ要スルトノ二個ニ外ナラストス

詐僞ノ投票ヲ爲シタルカ如キ又ハ暴行ヲ加ヘテ投票ヲ得セシメタルカ如キ又ハ納稅額年齡等ヲ詐稱シタルカ如キ是レナリ

而シテ此處刑ヲ爲スヤ之レ刑事裁判ヲ便利上民事裁判所ニテ爲スモノニシテ其性質ハ刑事ニ外ナラサレハ檢察官ノ立會ヲ必要トス蓋シ執行力ヲ付與セサルヘカラサレハナリ

當選訴訟ニ關係セサル場合假令ヘハ本訴審判中ニ第九十六條ノ犯罪發覺シタルカ如キハ通常ノ規則ニ從ヒ所轄刑事裁判所ノ管轄ナリトス

第八十五條　控訴院ニ於テ當選訴訟ヲ判定シタルトキハ其ノ裁判言渡書ノ謄本ヲ内務大臣ニ送付スヘシ若衆議院開會スルトキハ併セテ之ヲ議長ニ送付スヘシ

「註」本條ハ裁判言渡書ノ謄本ヲ送付スル事ヲ定ム當選訴訟ノ如キハ議員ノ資格ニ關係ヲ及ホスモノナレハ内務大臣及ヒ議長ニ之レヲ送付スルハ處分上必要ナルモノトス

第八十六條　當選訴訟ニ付控訴院ノ裁判ニ對シテハ大審院ニ上告スルコトヲ得

「註」本條ハ上告スルヿヲ許ス公平ヲ維持セシムルカ爲メナリ此場合ニ於テハ通常民事上告ノ手續ニ從フモノナリトス

第八十七條　訴訟ノ目的タル當選人ハ其ノ裁判確定ニ至ルマテ衆議院ニ列席スルノ權ヲ失ハス

「註」裁判言渡ハ確定セサレハ正當ノモノト云フヲ得ス之レ普通ノ原則ナリ即チ本條ハ之レヲ適用シタルモノトス

訴訟ノ目的タル當選人トハ第七十八條第八十一條ノ被告トナリタル人ナリトス

議院法第八十條ト同一ノ主意ナリトス

第八十八條　當選訴訟ニ付本章ニ規定シタルモノヽ外總テ普通ノ訴訟手續ニ依ル

「註」本條ハ訴訟手續ヲ定ム

普通ノ如ク訴訟ヲ爲スニハ訴狀ヲ作ラサルヘカラス喚出ヲ受ケサルヘカラス訴訟印紙ヲ貼用セサルヘカラス等總テ通常民事ノ訴訟ト異ナルヿナク其手續ニ從フヘシ此事ニ付テハ余カ著

シタル現行民事訴訟手續ヲ一讀スヘシ

第十三章　罰則

第八十九條　納稅額年齡住所及其ノ他選擧資格ニ必要ナル事項ヲ詐稱シ選擧人名簿ニ記載セラレタル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

「註」本條ハ第十八條ノ違犯者ナリトス

第九十條　投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若ハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ直接又ハ間接ニ金錢物品手形若ハ公私ノ職務ヲ選擧人ニ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シタルモノハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

其ノ授與又ハ約束ヲ受ケタルモノ亦同シ

「註」本條ハ左ノ數罪ヲ犯シタルモノヲ罰スル處ナリ

第一　投票ヲ得ル

第二　他人ニ投票ヲ得セシムル

第三　他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルコト

右ノ目的ヲ以テ直接又ハ間接ニ

イ　金錢物品手形ヲ

ロ　公私ノ職務ヲ

選擧人ニ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シタルモノ及ヒ其約束ヲ受ケ又ハ授與ヲ受ケタル者トモコ本條ノ罰金ニ處セラル可シ

茲ニ第一ノ例ヲ以テ示ス他ハ之レニ準スヘシ甲ナルモノ己レ當選センヿヲ思ヒ一枚ニテモ多數ナランコトヲ欲シ選擧人ニ謀リ直接ニ金百圓ヲ授與シタルトキハ甲及ヒ其金ヲ貰ヒタル人ハ共ニ本條ノ罰金ニ處セラルヽカ如シ而シテ本條ハ只目的ノミニテ未タ實行セサルモノヲ罰スルモノトス

第九十一條　直接又ハ間接ニ金錢物品手形若ハ公私ノ職務ヲ選擧人ニ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シテ投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若ハ他人ノ爲メニ投票ヲ爲スコトヲ抑止シタル者ハ刑法第二百三十四條ノ例ヲ以テ論ス

其ノ授與又ハ約束ヲ受ケ投票ヲ爲サヽル者亦同シ

「註」前條ハ其目的ヲ以テ罰シ本條ハ其有形上ヲ罰ス故ニ第九十條ハ意思ナリ本條ハ外面ニ形ハレタルモノナリ即チ第一ノ分ナレハ投票シ終リタルモノナリ以下之ニ準スヘシ

刑法第二百三十四條ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

前條ト本條トハ其所爲上ニ付輕重アリ害ニ大小アリ前條ハ未タ害少ナクシテ輕シ故ニ罰金ノミ本條ハ害大ナリ故ニ重シ從テ体刑ト罰金トヲ併セテ科スルモノトス

第九十二條　投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若ハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ選擧人ニ暴行ヲ加ヘタル者ハ一月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

「註」本條ハ第九十條ノ其手段ノ暴行ニ出ヅタル場合ナリトス

第九十條ハ双方承諾上ニ於テノ行爲ヲ罰シ本條ハ選擧人ノ承諾セサルヲ暴行即チ腕力ニ訴ヘ以テ非ヲ遂ケントスルノ行爲ナレハ其害少ナカラス以テ情狀重シ故ニ体刑ト罰金トヲ科ス而シテ本條ハ第九十條ト同シク只目的ノミヲ以テ罰スルモノトス

第九十三條　選擧人ニ暴行ヲ加ヘテ投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若ハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止シタル者ハ三月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

「註」本條ハ第九十一條ト比較スヘキモノトス

第九十一條ハ手ヲ下サスシテ物品其他ノ送物ヲ以テ双方承諾上ノ行爲タリ本條ハ暴行ノ手段ヲ以テ强テ之レヲ承諾セシメ無理ニ行ハシメタルモノナレハ第九十一條ヨリ重ク且害大ナリ

即チ第九十條ト第九十二條トノ權衡ト同シク第九十一條ト本條ト同一トシ第九十二條ヨリ重キ且多キ体刑并ニ罰金ヲ科セラルヘシ

第九十四條　選擧人ヲ强逼シ又ハ投票所若ハ選擧會場ヲ騷擾シ又ハ投票函ヲ抑留毀損若ハ刼奪スルノ目的ヲ以テ多衆ヲ嘯聚シタル者ハ六月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其ノ情ヲ知テ嘯聚ニ應シ勢ヲ助ケタル者ハ十五日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

犯罪者戎器又ハ兇器ヲ携帶シタルトキハ各々本刑ニ一等ヲ加フ

「註」本條ハ左ノ數箇ノ所爲ヲ罰セリ

第一　選擧人ヲ強逼スル

第二　投票所若ハ選擧會場ヲ騷擾スル

第三　投票函ヲ抑留毀壞若ハ劫奪スル

以上ノ目的ヲ以テ左ノ所爲ヲ爲スモノ

（イ）衆ヲ嘯集シタルモノ

右ノ條件ヲ具備シタルモノハ本條ノ輕禁錮ニ處シ附加ノ罰金ニ處セラルヘシ

其情即チ犯罪ヲ爲スコトヲ知テ嘯聚ニ應シ人數多勢ヲ以テ其犯罪ヲ助ケタルモノハ十五日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス蓋シ是等ノ犯罪者ハ第一項ノ犯罪者アリテ生シタルモノニシテ只其勢力ヲ助ケタルニ過キサルモノナレハ主唱者トハ其罪輕シトス

主唱者及ヒ助勢者ニ於テモ戎器即チ鎗刀鉄砲等又ハ兇器即チ刃物其他人ヲ殺傷スルニ足ルヘキ器具等ヲ携帶シタルトキハ各々本刑ニ一等ヲ加フヘシ蓋シ社會ニ危害ヲ加ヘ畏懼心ヲ增大ノ加フルニ依リテ然ルモノトス

第九十五條　選擧ノ際管理者又ハ立會人ニ暴行ヲ加ヘ又ハ暴行ヲ以テ投票所若ハ選擧會場ヲ騷擾シ又ハ投票函ヲ抑留毀壞若ハ劫奪シタル者ハ四月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

犯罪者戎器又ハ兇器ヲ携帶シタルトキハ各々本刑ニ一等ヲ加フ

「註」本條ハ第九十四條ト同權衡ニシテ外形上發覺シタル行爲ヲ罰スルモノナリ

本條ニ必要ナル條件ハ左ノ如シ

第一　選擧ノ際ナルヿ

第二　暴行ヲ以テシタルヿ

第三　行爲ヲ爲シタルヿ

而シテ前條ニ加フルニ管理者又ハ立會人ニ暴行ヲ加フルノ一所爲ヲ以テセリ

以上ノ犯罪者ハ本條ニ依リ之レヲ罰ス蓋シ其害ノ大ナルト重キト前條ヨリ一層進ミタルモノナレハナリ其本刑ニ一等ヲ加フルモ亦前條ノ末項ト同一ナリトス

第九十六條　多衆ヲ嘯聚シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ重禁獄ニ處ス

其ノ情ヲ知テ嘯聚ニ應シ勢ヲ助ケタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

犯罪者戎器又ハ兇器ヲ携帯シタルトキハ各々本刑ニ一等ヲ加フ

「註」本條ハ前條ノ罪ヲ犯スニ倘ホ多衆ヲ嘯聚シタルヿノ一要件ヲ加ヘタリ蓋シソノ要件タル實ニ此犯罪ノ爲メニハ勢力アルモノニシテ之レカ犯シ易ク從テ多衆ナルヲ以テ防クニ難シ故ニ重罪ノ刑ヲ以テ處斷ス

其ノ助勢者ニ於テモ從テ罪ヲ重クセリ

重禁獄トハ九年以上十一年以下ニシテ内地ノ獄ニ入レ定役ニ服サシメサルノ刑タリ

第九十七條　演說又ハ新聞紙若ハ其ノ他ノ文書ヲ以テ人ヲ教唆シ前三條ノ罪ヲ犯サシメタル者ハ刑法第百五條ノ例ニ依ル其ノ教唆ノ効ナキ者モ仍本刑ニ二等又ハ三等ヲ減シテ處斷ス

「註」本條ハ教唆シタル者ヲ罰スル條文タリ

刑法第百五條ニハ人ヲ教唆シテ重輕罪ヲ犯サシメタル者ハ亦正犯ト爲ストアリテ教唆シタルモノハ現ニ行ヒタルモノト同一ノ刑タリ

蓋シ未タ決意ナキモノニ之レカ決意セシメ罪ヲ犯サシム實ニ心情惡ムヘク其教唆ヤ社會ヲ害スル大ナリト云フヘシ

又刑法上ニ在テハ其教唆ヲ受ケタルモノ教示ノ如ク事ヲ行爲スルニ至リテ初メテ教唆罪ノ成立スルハ原則ナリト雖トモ本條ニ於テハ其教唆ノ効ナキモ倘ホ之レヲ處斷ス蓋シ本條ノ罪ノ如キ實ニ之ヲ未發ニ防カサレハ害大ナレハ之レヲ豫防スル爲メ仍ホ本刑ニ減等シテ處斷シ兇惡者ノ跡ヲ斷タシム

第九十八條　戎器又ハ兇器ヲ携帯シテ投票所若ハ選舉會場ニ入リタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

「註」本條ハ第七十條ノ違犯者ヲ罰スルモノトス

之レヲ罰セサレハ危險ニシテ且他ノ犯罪ヲ爲シ社會ノ害ヲ來タシ秩序ヲ紊ル故ニ豫シメ之ヲ防クモノトス

第九十九條　當選人ニ於テ第八十九條ヨリ第九十八條ニ至ルマテノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ當選ハ無効トス

「註」本條ハ之レカ無効ノ制裁ヲ爲サヽレハ一面ハ代議士トナリ一面ハ罪人トナルカ如キ不權衡ヲ來タスヲ以テナリ殊ニ体刑ノ如キハ選擧ノ權ヲモ失フモノナレハナリ

第百條　他人ノ姓名ヲ詐稱シテ投票ヲ爲シタル者及第十四條ニ依リ選擧人タ

ルコトヲ得サル者投票ヲ爲シタルトキハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

「註」本條ハ自己ノ名義マテハ無効トナルヲ慮リ他人ノ姓名ヲ詐稱シテ投票ヲナシタルモノ及第十四條ノ選擧人タルコトヲ得サルモノ投票ヲナシタルトキハ本條ノ罰金ニ處ス蓋シ其投票ノ多數少數ニ依リ代議士ニ害ヲ加ヘ且就會ノ秩序ヲ紊スヲ以テナリ

第百一條　前數條ノ罪ヲ犯シ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ再ヒ罰金ノ刑ニ處セラレタル者ハ三年以上七年以下選擧權及被選權ヲ停止ス

「註」本條ハ選擧權被選權ヲ停止スル場合ヲ示ス

此停止スルモノタル蓋シ刑法上ノ處罰ニ監視刑アルカ如ク懲戒ノ爲メ尚ホ後來ヲ慮リテナリ而シテ禁錮以上ノ刑ハ一度ヨリ罰金ノ刑ハ再度ヨリスヽレ其罪ニ輕重アリテ然ルモノトス

第百二條　立會人正當ノ事故ナクシテ此ノ法律ニ規定シタル義務ヲ缺クトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

「註」本條ハ立會人ヲ制裁ス

第三十三條第四十七條ノ立會人トナルハ之レ一ノ公義務ニシテ正當ノ事故ナクシテ之レヲ辭スルコトヲ得ス之レカ制裁ナキトキハ出席セサルヲ以テ如何トモスル能ハス立會人ヲ設クルノ法モ畫餅ニ屬ス故ニ之レヲ設ケテ故ナク辭セシメサルモノトス其正當ナリヤ否ハ町村長又ハ選擧長之レヲ決定ス

第百三條　本章ニ規定シタル罰則ノ外刑法ニ正條アルモノハ各々其ノ條ニ依リ重キニ從テ處斷ス

「註」本條ハ刑法トノ關係ヲ定ム

刑法上關係ヲ有スル正條ハ第二編第三章第一節兇徒聚衆ノ罪、第二節官吏ノ職務ヲ行フヲ妨害スル罪、第四章第九節公選ノ投票ヲ僞造スル罪、第二百八十四條、第三百二十六條第三百二十七條脅迫罪ノ場合ノ如シ

以上ノモノハ本法ト比較シ其重キニ從テ處斷スルモノトス

第百四條　凡テ選擧ニ關ル犯罪ハ六箇月ヲ以テ期滿免除トス

「註」本條ハ公訴ノ期限免除トス

蓋シ刑法上其他別ニ設ケアラサルトキハ治罪法第十一條ニ依リ三段トナシ六月、三年、十年ナリト雖モ本法ノ犯罪者ハ之レヲ六箇月トス之レ此犯罪タルヤ選擧ヲ爲スノ當時皆爭フモノ多クシテ常ニ之レカ犯罪者ハ少ナキモノナリ且選擧既ニ經過セハ又辭マル「例ナルカ如シ或ハ

以テ期滿免除ノ期限ノ短キヲ考フヘシ

第百五條　此ノ罰則ハ第十一章ノ各條ト共ニ投票所及選擧會場ニ貼示スヘシ

「註」是レ衆人皆知ルヘキモノナレトモ尚ホ之レカ注意ノ爲メ貼示スルモノトス

第十四章　補則

第百六條　市ニ於テハ一市ニ一ノ投票所ヲ設ケ此ノ法律ニ規定シタル投票及選擧ノ管理ハ市長兼テ之ヲ掌ルヘシ

第四條ノ場合ニ於テハ一選擧區ニ一ノ投票所ヲ設ケ此ノ法律ニ規定シタル投票及選擧ノ管理ハ區長兼テ之ヲ掌ルヘシ

「註」本條ハ市ニ就テノミ之ヲ示ス蓋シ本法中ニハ第十一條以下ハ皆町村長ノ事ノミナレハ市ニ於テハ此條ニ依リ町村長ト同一ノ權衡ヲ以テ掌ルヘキモノトス

第百七條　前條ノ場合ニ於テハ市長又ハ區長ハ其ノ管理スル選擧區內ニ於ケル選擧人中ヨリ立會人三名以上七名以下ヲ定メ遲クトモ選擧ノ期日ヨリ三日以前ニ之ヲ本人ニ通知シ選擧ノ當日選擧管理ノ市役所又ハ區役所ニ參會セシムヘシ

立會人ハ投票ニ立會ヒ併セテ投票ヲ點檢スヘシ

此ノ場合ニ於ケル選擧明細書ハ併セテ投票ノ事項ヲ記載スヘシ

「註」本法町村長ニ於ケル場合ニ於テハ第三十三條ノ立會人及ヒ第四十七條ノ立會人ト區別アリテ一ハ投票ト一ハ選擧トノ職掌ナレトモ市及ヒ區ハ一ナレハ立會人ヲ初メニ定メテ兩ナカラノ職ヲ行ハシムルモノトス故ニ此條ノ必要ヲ見ルヘシ

第百八條　島司ヲ置ク地方ニ於テハ此ノ法律ニ規定シタル選擧長ノ職務ハ島司之ヲ掌ルヘシ

第百九條　町村制ヲ施行セザル町村ニ於テハ此ノ法律ニ規定シタル町村長ノ職務ハ戶長之ヲ掌ルヘシ

「註」右兩條ハ本法ニ適セサルモノナレハ之レカ例外ヲ設ケ其同等ノ地位ヲ有スル人ニ之レヲ掌ラシムルモノトス

第百十條　選擧人名簿調製ノ初年ニ限リ所得稅法施行以來第六條第八條ニ規定シタル納稅額ヲ引續キ納完シタル者ハ其ノ納稅資格ノ期限ニ充ツルモノト見做スヘシ

「註」本法ノ實施モ最早近キニアレハ第六條第八條ノ所得稅納者滿三ケ年ニ適セサルモノアルヤモ知ルヘカラス且滿三ケ年ノ資格者又少ナキヲ見ル故ニ初年ニ限リ所得稅法施行以來引續キ納稅スルモノハ滿三ケ年トナラサルモ納稅資格者ト見做スモノトス

第百十一條 北海道沖繩縣及小笠原島ニ於テハ將來一般ノ地方制度ヲ準行スルノ時ニ至ルマテ此ノ法律ヲ施行セス

「註」本條ノ北海道沖繩縣小笠原島ノ如キハ地方制度未タ行ハサルヲ以テ此法律ヲ施行スルモ尙ホ早シ故ニ將來地方制度ヲ行フト同時ニ之レヲ行フマテ適用セサルモノトス

衆議院議員選擧法附錄

東京府 議員總數十二人

第一區 麴町區麻布區赤阪區一人
第二區 芝區一人
第三區 京橋區一人
第四區 日本橋區一人
第五區 本所區深川區一人
第六區 淺草區一人
第七區 神田區一人
第八區 下谷區本鄕區一人
第九區 小石川區牛込區四谷區一人
第十區 東多摩郡南豐島郡北豐島郡一人
第十一區 南足立郡南葛飾郡一人
第十二區 荏原郡伊豆七島一人

京都府 議員總數七人

第一區 上京區一人
第二區 下京區一人
第三區 愛宕郡葛野郡乙訓郡紀伊郡一人
第四區 宇治郡久世郡紀樂郡綴喜郡一人
第五區 南桑田郡北桑田郡船井郡天田郡何鹿郡二人
第六區 加佐郡與謝郡中郡竹野郡熊野郡一人

大阪府 議員總數十人

第一區 西區一人
第二區 東區北區一人
第三區 南區一人
第四區 西成郡東成郡住吉郡二人
第五區 島上郡島下郡豐島郡能勢郡一人
第六區 茨田郡交野郡讃良郡河內郡若江郡高安郡一人
第七區 石川郡八上郡古市郡安宿部郡錦部郡丹南郡志紀郡丹北郡大縣郡澁川郡一人
第八區 堺區大鳥郡泉郡一人
第九區 南郡日根郡一人

神奈川縣 議員總數七人

第一區 橫濱區一人
第二區 久良岐郡橘樹郡都筑郡一人

第三區　南多摩郡西多摩郡北多摩郡二人
第四區　三浦郡鎌倉郡一人
第五區　高座郡愛甲郡津久井郡一人
第六區　大住郡淘綾郡足柄上郡足柄下郡一人

兵庫縣　議員總數十二人

第一區　神戸區一人
第二區　武庫郡菟原郡川邊郡有馬郡一人
第三區　多紀郡氷上郡一人
第四區　八部郡明石郡美嚢郡一人
第五區　加古郡印南郡一人
第六區　加東郡多可郡加西郡一人
第七區　飾東郡飾西郡神東郡神西郡一人
第八區　揖東郡揖西郡赤穗郡佐用郡宍粟郡二人
第九區　城崎郡美含郡氣多郡出石郡七美郡二方郡朔夜郡朝來郡二人
第十區　津名郡三原郡一人

長崎縣　議員總數七人

第一區　長崎區西彼杵郡二人
第二區　東彼杵郡北高來郡一人
第三區　南高來郡一人
第四區　北松浦郡壹岐郡石田郡一人
第五區　南松浦郡一人
第六區　上縣郡下縣郡一人

新潟縣　議員總數十三人

第一區　新潟區西蒲原郡一人
第二區　北蒲原郡東蒲原郡檜船郡二人
第三區　中蒲原郡一人
第四區　南蒲郡一人
第五區　古志郡三島郡二人
第六區　刈羽郡一人
第七區　北魚沼郡南魚沼郡中魚沼郡東頸城郡二人
第八區　中頸城郡西頸城郡二人
第九區　雜太郡加茂郡羽茂郡一人

埼玉縣　議員總數八人

第一區　北足立郡新座郡一人
第二區　入間郡高麗郡横見郡比企郡二人
第三區　南埼玉郡北葛飾郡中葛飾郡二人
第四區　北埼玉郡大里郡幡羅郡榛澤郡男衾郡二人
第五區　兒玉郡賀美郡那珂郡秩父郡一人

群馬縣　議員總數五人

第一區　東群馬郡南勢多郡利根郡北勢多郡一人
第二區　新田郡山田郡邑樂郡一人
第三區　佐位郡那波郡緑野郡多胡郡南甘樂郡一人
第四區　西群馬郡片岡郡吾妻郡一人
第五區　北甘樂郡碓氷郡一人

千葉縣　議員總數九人

第一區　千葉郡市原郡一人
第二區　東葛飾郡印旛郡下埴生郡南相馬郡二人
第三區　香取郡一人
第四區　海上郡匝瑳郡一人
第五區　山邊郡武射郡一人
第六區　夷隅郡上埴生郡長柄郡一人
第七區　望陀郡周准郡天羽郡一人
第八區　安房郡平郡朝夷郡長狹郡一人

茨城縣　議員總數八人

第一區　東茨城郡鹿島郡行方郡二人
第二區　多賀郡久慈郡那珂郡二人
第三區　西茨城郡眞壁郡一人
第四區　豐田郡結城郡岡田郡西葛飾郡猿島郡一人
第五區　鉾波郡新治郡一人
第六區　信太郡河内郡北相馬郡一人

栃木縣　議員總數五人

第一區　河内郡芳賀郡一人
第二區　上都賀郡下都賀郡寒川郡二人
第三區　安蘇郡足利郡梁田郡一人
第四區　塩谷郡那須郡一人

奈良縣　議員總數四人

第一區　添上郡添下郡山邊郡廣瀬郡平群郡一人
第二區　式上郡式下郡宇陀郡十市郡高市郡葛上郡葛下郡忍海郡二人
第三區　宇智郡吉野郡一人

三重縣　議員總數七人

第一區　安濃郡一志郡一人
第二區　三重郡鈴鹿郡奄藝郡河曲郡一人
第三區　桑名郡員辨郡朝明郡一人
第四區　飯高郡飯野郡多氣郡一人
第五區　度會郡答志郡英虞郡北牟婁郡南牟婁郡二人
第六區　阿拜郡山田郡名張郡伊賀郡一人

愛知縣　議員總數十一人

第一區　名古屋區一人
第二區　愛知郡一人
第三區　東春日井郡西春日井郡一人
第四區　丹羽郡葉栗郡一人
第五區　中島郡一人
第六區　海東郡海西郡一人
第七區　知多郡一人
第八區　碧海郡幡豆郡一人
第九區　額田郡西加茂郡東加茂郡一人
第十區　北設樂郡南設樂郡寶飯郡一人
第十一區　渥美郡八名郡一人

靜岡縣　議員總數八人

第一區　安倍郡有渡郡一人
第二區　富士郡庵原郡一人
第三區　志太郡益津郡一人
第四區　榛原郡佐野郡城東郡一人
第五區　周智郡豐田郡山名郡磐田郡一人
第六區　長上郡敷知郡濱名郡引佐郡麁玉郡一人
第七區　那賀郡賀茂郡君澤郡田方郡駿東郡二人

山梨縣　議員總數三人

第一區　西山梨郡北巨摩郡中巨摩郡一人
第二區　東山梨郡南都留郡北都留郡一人
第三區　東八代郡西八代郡南巨摩郡一人

滋賀縣　議員總數五人

第一區　滋賀郡高島郡一人
第二區　甲賀郡野洲郡栗太郡一人
第三區　犬上郡愛知郡神崎郡蒲生郡二人
第四區　西淺井郡東淺井郡伊香郡阪田郡一人

岐阜縣　議員總數七人

第一區　厚阜郡方縣郡各務郡一人
第二區　不破郡安八郡一人
第三區　海西郡下石津郡多藝郡上石津郡羽栗郡中島郡一人
第四區　大野郡池田郡本巢郡席田郡山縣郡一人
第五區　武儀郡郡上郡一人
第六區　加茂郡可兒郡土岐郡惠那郡一人
第七區　大野郡益田郡吉城郡一人

長野縣　議員總數八人

第一區　上水內郡更級郡一人
第二區　下水內郡上高井郡下高井郡一人
第三區　小縣郡埴科郡一人
第四區　西筑摩郡東筑摩郡南安曇郡北安曇郡二人
第五區　南佐久郡北佐久郡一人
第六區　上伊那郡諏訪郡一人
第七區　下伊那郡一人

宮城縣　議員總數五人

第一區　仙臺區名取郡宮城郡一人
第二區　柴田郡刈田郡伊具郡亘理郡一人
第三區　黑川郡加美郡志田郡玉造郡遠田郡一人
第四區　栗原郡登米郡一人
第五區　桃生郡牡鹿郡本吉郡一人

福島縣　議員總數七人

第一區　信夫郡伊達郡一人
第二區　安達郡安積郡一人
第三區　田村郡巖瀨郡東白川郡西白河郡石川郡二人
第四區　南會津郡北會津郡大沼郡耶麻郡河沼郡二人
第五區　菊多郡磐前郡磐城郡楢葉郡標葉郡行方郡宇多郡一人

巖手縣　議員總數九人

第一區　南巖手郡北巖手郡紫波郡二戶郡一人
第二區　東閉伊郡中閉伊郡北閉伊郡南九戶郡北九戶郡一人
第三區　稗貫郡東和賀郡西和賀郡西閉伊郡南閉伊郡一人
第四區　江刺郡膽澤郡氣仙郡一人

第五區　西蒲井郡東蒲井郡一人

青森縣　議員總數四人

第一區　東津輕郡上北郡下北郡三戸郡二人

第二區　北津輕郡南津輕郡一人

第三區　中津輕郡西津輕郡一人

山形縣　議員總數六人

第一區　南村山郡東村山郡西村山郡二人

第二區　東置賜郡南置賜郡西置賜郡一人

第三區　飽海郡西田川郡東田川郡二人

第四區　最上郡北村山郡一人

秋田縣　議員總數五人

第一區　南秋田郡一人

第二區　山本郡北秋田郡鹿角郡一人

第三區　河邊郡由利郡一人

第四區　仙北郡平鹿郡雄勝郡二人

福井縣　議員總數四人

第一區　足羽郡大野郡一人

第二區　吉田郡阪井郡一人

第三區　南條郡今立郡丹生郡一人

第四區　三方郡遠敷郡大飯郡敦賀郡一人

石川縣　議員總數六人

第一區　金澤區石川郡二人

第二區　能美郡江沼郡一人

第三區　河北郡羽咋郡鹿島郡二人

第四區　鳳至郡珠洲郡一人

富山縣　議員總數五人

第一區　上新川郡婦負郡二人

第二區　下新川郡一人

第三區　射水郡一人

第四區　蠣波郡一人

鳥取縣　議員總數三人

第一區　邑美郡法美郡巖井郡八上郡八東郡智頭郡一人

第二區　高草郡氣多郡河村郡久米郡八橋郡一人

第三區　汗入郡會見郡日野郡一人

島根縣　議員總數六人

第一區　島根郡秋鹿郡意宇郡一人

第二區　能義郡仁多郡大原郡飯石郡一人

第三區　出雲郡楯縫郡神門郡一人

第四區　邇摩郡安濃郡邑智郡一人

第五區　那賀郡美濃郡鹿足郡一人

第六區　周吉郡穩地郡海士郡知夫郡一人

岡山縣　議員總數八人

第一區　岡山區御野郡上道郡邑久郡兒島郡二人

第二區　津高郡赤阪郡磐梨郡和氣郡一人

第三區　都宇郡窪屋郡賀陽郡下道郡一人

第四區　淺口郡小田郡後月郡一人

第五區　上房郡川上郡哲多郡阿賀郡一人

第六區　眞島郡大庭郡西西條郡西北條郡東南條郡東北條郡一人

第七區　勝北郡勝南郡吉野郡英田郡久米北條郡久米南條郡一人

廣島縣　議員總數十人

第一區　廣島區安藝郡三人

第二區　佐伯郡一人

第三區　沼田郡高宮郡山縣郡一人

第四區　高田郡三次郡三谿郡一人

第五區　加茂郡一人

第六區　豐田郡一人

第七區　御調郡世羅郡一人

第八區　深津郡沼隈郡安那郡一人

第九區　蘆田郡品治郡神石郡甲奴郡奴可郡三上郡惠蘇郡一人

山口縣　議員總數七人

第一區　吉敷郡美禰郡厚狹郡佐波郡二人

第二區　阿武郡見島郡大津郡一人

第三區　赤間關區豐浦郡一人

第四區　都濃郡熊毛郡大島郡二人

第五區　玖珂郡一人

和歌山縣　議員總數五人

第一區　和歌山區名草郡海部郡有田郡二人

第二區　伊都郡那賀郡一人

第三區　日高郡西牟婁郡東牟婁郡二人

德島縣　議員總數五人

第一區　名東郡勝浦郡一人

第二區　那賀郡海部郡一人

第三區　名西郡阿波郡麻植郡一人
第四區　板野郡一人
第五區　美馬郡三好郡一人

香川縣　議員總數五人

第一區　香川郡山田郡小豆郡一人
第二區　大內郡寒川郡三木郡一人
第三區　鵜足郡阿野郡一人
第四區　多度郡那珂郡一人
第五區　豐田郡三野郡一人

愛媛縣　議員總數七人

第一區　溫泉郡和氣郡風早郡野間郡久米郡伊豫郡下浮穴郡一人
第二區　越智郡桑村郡周布郡一人
第三區　喜多郡上浮穴郡一人
第四區　新居郡宇摩郡一人
第五區　西宇和郡東宇和郡一人
第六區　南宇和郡北宇和郡一人

高知縣　議員總數四人

第一區　土佐郡土岡郡一人
第二區　幡多郡高岡郡吾川郡一人
第三區　香美郡安藝郡一人

福岡縣　議員總數九人

第一區　福岡區怡土郡志摩郡早良郡一人
第二區　糟屋郡宗像郡那珂郡御笠郡席田郡上座郡下座郡夜須郡二人
第三區　遠賀郡鞍手郡嘉麻郡穗波郡一人
第四區　御井郡御原郡山本郡生葉郡竹野郡一人
第五區　三郡上妻郡下妻郡一人
第六區　山門郡三池郡一人
第七區　企救郡田川郡一人
第八區　京都郡仲津郡築城郡上毛郡一人

大分縣　議員總數六人

第一區　大分郡一人
第二區　北海部郡南海部郡一人
第三區　大野郡直入郡一人
第四區　速見郡玖珠郡日田郡一人
第五區　西國東郡東國東郡一人
第六區　下毛郡宇佐郡一人

佐賀縣　議員總數四人

第一區　佐賀郡神崎郡小城郡基肄郡養父郡三根郡二人
第二區　東松浦郡西松浦郡一人
第三區　杵島郡藤津郡一人

熊本縣　議員總數八人

第一區　熊本區飽田郡託麻郡宇土郡二人
第二區　玉名郡一人
第三區　山鹿郡山本郡菊池郡合志郡阿蘇郡二人
第四區　上益城郡下益城郡一人
第五區　八代郡葦北郡球磨郡一人
第六區　天草郡一人

宮崎縣　議員總數三人

第一區　宮崎郡北那珂郡南那珂郡兒湯郡一人
第二區　北諸縣郡西諸縣郡東諸縣郡一人
第三區　東臼杵郡西臼杵郡一人

鹿兒島縣　議員總數七人

第一區　鹿兒島郡谿山郡北大隅郡熊毛郡馭謨郡給黎郡揖宿郡穎娃郡川邊郡一人
第二區　日置郡阿多郡一人
第三區　高城郡出水郡南伊佐郡薩摩郡甑島郡一人
第四區　菱刈郡姶良郡桑原郡西囎唹郡北伊佐郡一人
第五區　南諸縣郡南大隅郡肝屬郡東囎唹郡一人
第六區　大島郡一人
第七區

會計法目次

第一章　總則　一丁
第二章　豫算　三丁
第三章　收入　六丁
第四章　支出　七丁
第五章　決算　十丁
第六章　期滿免除　十一丁
第七章　歳計剰餘定額繰越豫算外收入及定額繰入　十三丁
第八章　政府ノ工事及物件ノ賣買貸借　十五丁
第九章　出納官吏　十八丁
第十章　雜則　二十一丁
第十一章　附則　二十三丁
二十四丁

○會計法

「註」夫レ會計法トハ國家ノ經濟ヲ處理スルノ法律ナリ會計法嚴正ナラサルトキハ政府ノ經濟甚タ漫リニシテ國家ノ盛衰ニ關ス實ニ會計ハ之レヲ正格ニシテ法律ヲ立テ以テ國家ノ富有ヲ計ラサルヘカラス之レ憲法上會計ノ部ヲ設ケ又從テ本法ヲ設ケラレタル所以ナリ

第一章　總則

「註」本章ハ總則ヲ載ス總則ハ本法一般ニ用ユヘキ規則ヲ云フ

第一條　政府ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

一會計年度所屬ノ歳入歳出ノ出納ニ關ル事務ハ翌年度十一月三十日マテニ悉皆完結スヘシ

「註」本條ハ會計年度ノ期限ヲ示セリ

政府ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル故ニ明治二十二年ノ會計上ノ年度即チ明治二十二年度トハ明治二十二年四月一日ヨリ始マリテ明治二十三年三月三十一日マテヲ云フト知ルヘシ

右ノ年度中ニ所屬トナルヘキ歳入即チ租税其他ノ收納及ヒ歳出即チ一切ノ支出拂方等總テ出

納ニ係ル事務ハ翌年度十一月三十日マテニ悉皆完結スルモノナリ卽チ明治二十二年度ニテ云ヘハ明治二十三年十一月三十日マテニ徵收スヘキモノハ徵收シ得ヘカラサルモノハ公賣處分ニ迄及ヒ拂出スモノハ之レ拂出シ請求セサルモノハ之レヲ拋棄シタルモノト見認メ悉皆其年度ノ局ヲ結フモノナリ但シ其拋棄ノ事ニ付テハ第十八條ニ例外アリトス

第二條　租稅及其ノ他一切ノ收納ヲ歲入トシ一切ノ經費ヲ歲出トシ歲入歲出ハ總豫算ニ編入スヘシ

「註」本條ハ歲入歲出ノ解ヲ下シタルモノナリ敢テ解スルコトナシ

第三條　各年度ニ於テ決定シタル經費ノ定額ヲ以テ他ノ年度ニ屬スヘキ經費ニ充ツルコトヲ得ス

「註」本條ハ年度外ノ流用ヲ禁スルノ令タリ

經費ハ年度毎ニ決定シテ定額ヲ定メ之レヲ以テ其年度ヲ支出スヘキモノナリ之レヲ流用シテ他年度ノ分ニ充テルカ如ク爲スニ於テハ之レ濫用スルモノニシテ制限外ニ之レヲ許スニ於テハ會計ノ正格ヲ失シ終ニ此法律モ徒法トナル實ニ會計ハ此本條ノ原則ヲ常ニ服膺セサルヘカラス

第四條　各官廳ニ於テハ法律勅令ヲ以テ規定シタルモノヽ外特別ノ資金ヲ有スルコトヲ得ス

「註」本條ハ故ナク資金ヲ有スルヲ制ス

特別ノ資金ハ各法律勅令ヲ以テ之ヲ定ム故ニ其他ニ於テ之レカ有スルヿヲ得ス若シ之レヲ許スニ於テハ歲出ニ差支ヲ生シ從テ歲入ニ不足ヲ來シ政府ノ經濟ニ障害ヲ生スルノ恐レアリ故ニ之レヲ禁ス

第二章　豫算

「註」本章ハ豫算卽チ見積リ勘定ノ事ヲ定ム

第五條　歲入歲出ノ總豫算ハ前年ノ帝國議會集會ノ始ニ於テ之ヲ提出スヘシ

「註」本條ハ豫算案提出ノ期限ヲ定メタリ

明治二十三年ノ歲入歲出ノ總豫算ハ前年タル卽チ明治二十二年ノ帝國議會ノ集會ノ始メニ於テ之ヲ提出スルモノトス何ントナレハ憲法第六十五條ノ如ク前ニ衆議院ニ提出スルノ明文アレハ其會議ニ付セサルヘカラサルカ故ナリ

第六條　歲入歲出ノ總豫算ハ之ヲ經常臨時ノ二部ニ大別シ各部中ニ於テ之ヲ

款項ニ區分スヘシ

總豫算ニハ帝國議會參考ノ爲ニ左ノ文書ヲ添附スヘシ

第一　各省ノ豫定經費要求書但シ各項中各目ノ明細ヲ記入スヘシ

第二　其ノ年三月三十一日ニ終リタル會計年度ノ歳入歳出現計書

「註」本條ハ總豫算ノ方法ヲ示スモノナリ

歳入歳出ノ總豫算ハ之レヲ左ノ二部ニ大別ス

一　經常部

二　臨時部

又各部ニ付テ款項ニ區分スヘシ

假令ヘハ歳入ノ經常ノ部ニ款ヲ設ケテ內國稅、關稅ト區別スルカ如ク尙ホ其款ヲ小別シテ內國稅ニハ地租、所得稅、車稅、牛馬賣買免許稅ト項ヲ設ケ又關稅ニハ海關稅ノ項ヲ設クルカ如シ

第二項ハ帝國議會ノ參考ト爲スカ爲メ左ノ文書ヲ添ユルモノトス之レ會議ニ議スルニ際リテ議員ノ參考トナスカ爲メナリ

第一ハ各省ノ豫定經費ノ要求書此要求書ニハ各項中ニ各目ヲ設ケ明細ニ之レヲ記入ス例ヘハ外務省ノ旅費ノ項何千圓其目ヲ設ケテ內國旅費又ハ外國旅費ト明記スルカ如シ

第二ハ其年三月三十一日ニ終リタル會計年度ノ歳入歳出ノ現計書此レハ果シテ豫算要求書ト大ナル懸隔ナキヤヲ見ルニ足ルモノトス

第七條　豫算中ニ設クヘキ豫備費ハ左ノ二項ニ分ツ

第一　豫備金

第二　豫備金

第一豫備金ハ避クヘカラサル豫算ノ不足ヲ補フモノトス

第二豫備金ハ豫算外ニ生シタル必要ノ費用ニ充ツルモノトス

「註」本條ハ豫算中ニ豫備費ヲ設クルヿヲ示セリ

豫備費ハ第一ノ項ト第二ノ項トニ分ツ本文ノ如シ而シテ第一豫備金ハ明文ノ如キ費用ニ用ユルモノニシテ憲法第六十九條前半文ニアル規定ニ依リ第二豫備金ハ其第六十九條後半文ニアル規定ニ依リ本條ニ之レヲ設ケタルモノナリトス尙ホ同法ノ解ト參看スヘシ

五第八條　豫備金ヲ以テ支辨シタルモノハ年度經過後帝國議會ニ提出シ其ノ承

諾ヲ求ムルヲ要ス

「註」本條ハ豫備金ヲ支辨シタルトキノ處置ヲ示ス

豫備金支辨セハ帝國議會ニ提出シテ承諾ヲ求メサルヲ得ス何ントナレハ原ト豫備會ハ其支出ノ途ヲ外ノモノヽ如ク初メニ於テ示シアラサレハ議會ノ知ルヿナシ故ニ斯ノ如ク支辨ノ後之レカ承諾スルヲ要ムル爲メニ提出ス

第九條　毎年度大藏省證券發行ノ最高額ハ帝國議會ノ協賛ヲ經テ之ヲ定ム

「註」本條ハ大藏省證券ノ發行高ヲ定ムル場合ヲ示セリ

大藏省證券條例ハ明治十七年九月第二十四號布告ニシテ出納上一時便用ノ爲メ大藏省ヨリ發行スル證券ナリ而シテ其第三條ニ依レハ太政官ノ裁可ヲ受ケテ發行高ヲ定ムルノ規則ナリシカ帝國議會ヲ開設セラルヽノ後ハ同會ノ協賛ヲ經テ之ヲ定メラルヽモノナリトス

第三章　收入

「註」本章ハ收入卽チ租稅其他ノ政府ヘ收納スヘキ事ヲ規定ス

第十條　租稅及其ノ他ノ歲入ハ法律命令ノ規程ニ從ヒ之ヲ徵收スヘシ

法律命令ニ依リ當該官吏ノ資格アル者ニ非サレハ租稅ヲ徵收シ又ハ其ノ他ノ歲入ヲ收納スルコトヲ得ス

「註」本條ハ收入スヘキ金額ヲ徵收スル原因及ヒ其官吏ヲ規定セリ

租稅其他ノ歲入卽チ諸稅金手數料懲罰金等ハ皆法律命令ノ規程ニ從ヒ之ヲ徵收ス

例ヘハ所得稅ハ所得稅規則、酒造稅金ハ酒造稅則、菓子稅ハ菓子稅則、免許料ハ代言人規則又ハ特許意匠等ノ條例、拂下代ノ如キハ命令ニ依リ、罰金ノ如キハ裁判宣告ニ依ルカ如シ

租稅其他ノ歲入ニハ各當該官吏アリテ之ヲ掌ル例ヘハ諸稅金ノ郡區長戶長地方廳官ノ如ク罰金科料ノ檢事ニ於ケル電信郵便料ノ電信局郵便局官吏ニ於ケルカ如シ其擔當主任ノ官吏ニアラサレハ之レヲ徵收シ又ハ收納スルヿヲ得サルモノトス

第四章　支出

「註」本章ハ前章收入ニ對スル文字ニシテ支出卽チ諸拂ヒ出シノ事ヲ規定ス

第十一條　毎會計年度ニ於テ政府ノ經費ニ充ツル所ノ定額ハ其ノ年度ノ歲入ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

「註」本條ハ支辨スヘキ場合ト其經費トヲ示ス

第十條ノ歲入ハ政府ノ經費ニ充ツルタメ徵收スヘキモノニシテ其徵收シタル歲入ハ何時ノ經

費ニ充ツルカト云ヘハ卽チ其年度ノ經費ニ充ツ所ノ定額ニ之レヲ充ツルモノトス假令ヘハ明治二十三年度ノ政府ノ經費ニ充ツル所ノ定額金ハ其明治二十三年度ノ歲入ヲ以テ之ヲ支辨セルモノトス

第十二條　國務大臣ハ豫算ニ定メタル目的ノ外ニ定額ヲ使用シ又ハ各項ノ金額ヲ彼此流用スルコトヲ得ス

國務大臣ハ其ノ所管ニ屬スル收入ヲ國庫ニ納ムヘシ直ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス

「註」本條ハ定額金ノ流用ヲ許サス且收入金ヲ國庫ニ收納スル場合ヲ示セリ

國務大臣ハ豫算ニ定メタル目的ノ外ニ其定額ヲ使用シ又ハ各項ノ金ヲ彼此流用スルコトヲ得ス之レ蓋シ會計ノ濫ルヲ防クニアリ

例ヘハ神社費トシテ豫算ヲ定メタルトキハ此目的卽チ神社費ヨリ外ニ此定額ヲ使用スルヿヲ得ス又例令ハ旅費ノ不足ヲ生シタルヨリ營繕費ノ餘分ヨリ之ヲ補ヒ營繕費不足ヲ生スルヨリ旅費ヨリ之レヲ用ユルカ如キハ決シテ之レヲ許サス之レヲ許ストセハ各項目ヲ區別シタルノ詮ナキノミナラス會計法實ニ正格ヲ失スルモノナリ

國務大臣ハ其所管ニ屬スル收入例ヘハ司法大臣ノ罰金科料、代言人免許料ヲ收入　遞信大臣ノ電信郵便料ヲ收入スルカ如ク內閣ノ鐵道收入金ノ如キハ皆之レヲ國庫ニ納ムルトキハ假令租稅ナリ手數料ナリ人民ヨリ徵收シタル金ナルモ政府ノ有一歸シ政府ノ金額トナルヘシ故ニ直ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス卽チ一旦政府ノ有トシテ更ニ之レヲ得テ使用スルモノナリトス

第十三條　國務大臣ハ其ノ所管定額ヲ使用スル爲ニ國庫ニ向ヒテ仕拂命令ヲ發スヘシ但シ別ニ定ムル所ノ規程ニ從ヒ他ノ官吏ニ委任シテ仕拂命令ヲ發セシムルヿヲ得

「註」本條ハ仕拂命令ヲ發スル場合ヲ示ス

收入支出ハ共ニ國庫ノ關ル處ニシテ國庫ハ歲入ヲ受ケ國庫ハ仕拂ヲ爲ス

仕拂ヲ爲スニハ國庫ハ命令ニ依フサルヘカラス故ニ本條ニ於テハ其仕拂命令ヲ發スル人ヲ定ム卽チ國務大臣又ハ他ノ委任ヲ受ケタル官吏ナリトス

然レトモ仕拂命令ヲ發スルト雖モ其所管定額ヲ使用スルニアラサレハ能ハサルモノトス何ントナレハ其所管ニアラサル定額ハ各所管ノ大臣アレハ自己ノ分ニノミ之レヲ發スルノ權アリ

若シ定額外ノ命令アルニ於テハ其命令ハ無効ナルヿ勿論タリ

第十四條　國庫ハ法律命令ニ反スル仕拂命令ニ對シテ仕拂ヲ爲スコトヲ得ス

「註」本條ハ國庫ノ權ヲ示サレタリ

國庫ハ法律命令ニ依ル仕拂命令ニ對シテハ之レヲ仕拂フノ義務ヲ有スルモ法律命令ニ反シタル仕拂命令ニ對シテハ仕拂ヒヲ拒ムノ權アリトス之レ當然ナリトス

第十五條　國務大臣ハ政府ニ對シ正當ナル債主若ハ其ノ代理人ノ爲ニスルニ非サレハ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得ス

左ノ諸項ノ經費ニ限リ國務大臣ハ主任ノ官吏ニ委任シ又ハ政府ノ命シタル銀行ニ委任シテ現金仕拂ヲ爲サシムル爲ニ現金前渡ノ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得

第一　國債ノ元利拂

第二　軍隊軍艦及官船ニ屬スル經費

第三　在外各廳ノ經費

第四　前項ノ外總テ外國ニ於テ仕拂ヲ爲ス經費

第五　運輸通信ノ不便ナル內國ノ地方ニ於テ仕拂ヲ爲ス經費

第六　廳中常用雜費ニシテ一箇年ノ總費額五百圓ニ滿タサルモノ

第七　場所ノ一定セサル事務所ノ經費

第八　各廳ニ於テ直接ニ從事スル工事ノ經費但シ一主任官ニ付三千圓マテヲ限ル

「註」本條ハ仕拂命令ヲ發スル原因及ヒ現金前渡ノ仕拂命令ヲ發スル場合ヲ示ス

第一項ノ如キハ卽チ仕拂命令ヲ發スルハ其受クルモノヽ正格ナラサルヘカラス之レ當然ニシテ政府ニ對シ債主ナラサルモノニ之レヲ仕拂フヘキ義務ナケレハナリ

第二項ノ如キ列記セルモノニハ皆現金仕拂ヲ爲サヽルヘカラサルモノナレハ便利ノ爲ノ現金前渡ヲ爲スモノトス若シ正當ノ如ク仕拂命令ノ發シタル後國庫ヨリ仕拂フカ如クスルニ於テハ不便ニシテ現金ヲ受クル時延滯シ到底事務整理上ニモ差支ヲ生スルヲ以テ特ニ之レニ例外ヲ設ケタルモノナリ

第五章　決算

「註」決算トハ豫算ニ對スルモノニシテ豫算ヲ精算スルモノナリトス

第十六條　會計檢査院ノ檢査ヲ經テ政府ヨリ帝國議會ニ提出スル總決算ハ總豫算ト同一ノ樣式ヲ用ヰ左ノ事項ノ計算ヲ明記スヘシ

歲入ノ部

歲入豫算額

調定濟歲入額

收入濟歲入額

收入未濟歲入額

歲出ノ部

歲出豫算額

豫算決定後增加歲出額

仕拂命令濟歲出額

翌年度繰越歲出額

「註」本條ハ決算ニ付テノ明記スヘキ事項ヲ示セリ

決算ハ憲法第七十二條ニ依リテ會計檢査院ノ檢査ヲ確定シテ政府之レヲ帝國議會ニ提出スルモノナリ卽チ本條ハ其決算ニシテ計算スル事項ヲ列記シタリ

而シテ豫算ハ第五條ニ於テ帝國議會ノ初メニ之レヲ提出スヘキノ明文アリト雖モ決算ニハ之レカ明文ナシ蓋シ決算ハ今ヨリ將來ノ事ヲ爲スニアラスシテ以後ノ成蹟ヲ精理スルニアレハ常ニ遲クナルコトハ現行法ニ於テモ常ニ決算公布ノ遲キヲ見テモ知ルヘシ是亦別ニ急迫ヲ要スルモノニハアラサルモノトス第十八條第十九條ニ於ケル法文ヲ以テ察スレハ先ツ五箇年ノ後ニ至ルヿアルヘキヲ知ルヘシ

第十七條　前條ノ總決算ニハ會計檢査院ノ檢査報告ト俱ニ左ノ文書ヲ添附スヘシ

第一　各省決算報告書

第二　國債計算書

第三　特別會計計算書

「註」本條ハ帝國議會ノ參考トシテ文書ヲ添附スルモノナリトス

第六章　期滿免除

「註」本章ハ政府ヨリ仕拂フヘキ義務ト政府ヘ收入スヘキ金額トノ期滿免除ヲ定メラルモ

ノナリ期満免除トハ如何ナル意義ナルヤト云フニ豫定ノ期限ヲ経過セハ仕拂ヲ受取ルノ權利ハナク又納ムヘキノ義務ナシト云フニアリトス之レヲ法律上ニ云フトキハ仕拂ヲ受取ルノ權利ナキニ依リ拂フモノヨリ云ヘハ期限免除即チ拂フヿヲ免カレ除カルモノナリ又納ムヘキノ義務ナキニ依ルトキハ其納ムル人ニ付テ云ヘハ期満所得即チ納ムルヿナクシテ其納ムヘキ金額ノ利益ヲ己レカ所得トスルトノ意ナリト知ルヘシ

第十八條　政府ノ負債ニシテ其ノ仕拂フヘキ年度経過後満五個年内ニ債主ヨリ支出ノ請求若ハ仕拂ノ請求ヲ爲サヽルモノハ期満免除トシテ政府ハ其ノ義務ヲ免ルヽモノトス但シ特別ノ法律ヲ以テ期満免除ノ期限ヲ定メタルモノハ各々其ノ定ムル所ニ依ル

［註］本條ハ期満免除ノ一ヲ示サレタリ

政府ノ負債ニシテ其仕拂フヘキ年度ノ経過後即チ假令明治二十四年度中ノ仕拂ニ屬スヘキモノニシテ其明治二十五年三月三十一日ヲ経過後満五ケ年内ニ政府ノ債主ヨリ支出ノ請求ヲ爲サス又ハ仕拂ノ請求ヲ爲サヽルモノハ期満免除トシテ政府ハ其支出又ハ仕拂ノ義務ヲ免カルヽモノトス之レ法律上債主ハ既ニ受取リ負債者タル政府ハ之レヲ拂ヒ渡シタルモノト見認ムルニ之レ由ル

但シ特別ノ法律ヲ以テ期満免除ノ期限ヲ本條ヨリ長クシ又ハ短クシタルモノハ各其法律ノ定メタル期限ヲ守ラサルヘカラス

第十九條　政府ニ納ムヘキ金額ニシテ其ノ納ムヘキ年度経過後満五個年内ニ上納ノ告知ヲ受ケサルモノハ其ノ義務ヲ免ルヽモノトス但シ特別ノ法律ヲ以テ期満免除ノ期限ヲ定メタルモノハ各其ノ定ムル所ニ依ル

［註］本條ハ政府ニ納ムヘキ金額即チ租税其他ノ歳入ヲ云フ此モノハ上納ノ告知ヲ受ケサルモノハ其義務ヲ免レ納メタルト同一ノ効ヲ有スルモノトス

若シ五ケ年内一度ニテモ上納ノ告知ヲ受ケタルトキハ期満免除ヲ得サルモノトス

第七章　歳計剰餘定額繰越豫算外收入及定額戻入

［註］本章ハ左ノ數項ヲ規定シタリ

一　歳計剰餘

二　定額繰越

三　豫算外ノ收入

四　定額ノ戻入

第二十條　各年度ニ於テ歳計ニ剰餘アルトキハ其ノ翌年度ノ歳入ニ繰入ルヘシ

「註」本條ハ歳計ニ剰餘アルトキハ其翌年度ノ歳入トシテ之レヲ繰入ルハ勿論ノ事ニシテ前年度ニ於テ餘分トナリタルモノハ其翌年度ニ於テハ之レヲ一部ノ歳入トシテ豫算案ニ載スルモノトス

第二十一條　豫算ニ於テ特ニ明許シタルモノ及一年度内ニ終ルヘキ工事又ハ製造ニシテ避クヘカラサル事故ノ爲ニ事業ヲ遲延シ年度内ニ其ノ經費ノ支出ヲ終ラサリシモノハ之ヲ翌年度ニ繰越シ使用スルコトヲ得

「註」本條ハ繰越スヘキ場合ヲ示ス

法律上ノ原則ヨリ論スルトキハ前年度ノ歳計ニ餘リヲ生シタルトキハ其翌年度ノ歳入ニ繰入レ其餘金ノ種類ノ何タルヲ問ハサルナリ

然ルニ本條ノ如キ特ニ豫算上ニ於テ明許シタル仕拂金額及年度内ニ於テ仕遂クヘキ事業ノ正當ノ事故ニ依リ遲延シテ年度内ニ其經費ノ支出ヲ終ヘサルモノヽ如キ金額ハ假令剰餘シ來ルトモ翌年度ノ歳入ニ合算セスシテ其儘翌年度ニ繰越シ其儘前年度ノ事業ニ繼續シテ仕拂ヒ使用スルヿヲ得ヘシ之レ止ヲ得サルモノニシテ反テ便法ナリトス若シ原則ノ如ク爲スモ亦之レカ經費ヲ設ケサルヘカラサルノ手數ヲ要ス而シテ此繰越使用タル翌年度ノ事業ニアラスシテ前年度ノ引續ナレハナリ且後ノ場合ノ如キハ已ニ支出中ノモノナレハナリ前ノ場合ノ如キ特ニ明許シアルモノナレハナリ

第二十二條　數年ヲ期シテ竣功スヘキ工事製造及其ノ他ノ事業ニシテ繼續費トシテ總額ヲ定メタルモノハ毎年度ノ仕拂殘額ヲ竣功年度マテ遞次繰越使用スルコトヲ得

「註」本條ハ繼續費ノ繰越ノ事ヲ定メタリ

繼續費ヲ設クルヿハ憲法第六十八條ニ規定セルカ如ク特別ノ須要ニ由リ卽チ豫メ年限ヲ期シ鐵道ノ如キ電信ノ如キ臺場ノ如キ開港ノ如キ砲製ノ如キ其他種々ナル事業ハ繼續費トシテ總額ヲ定メタルモノニシテ竣功年度ニ至ラサレハ結局スルヿ出來サルモノナリ故ニ毎年度ノ仕拂殘額ハ之レヲ翌年度ニ廻シ其ノ事業竣功年度マテ遞次卽チ次第々々ニ繰越使用スルコトヲ得ヘシ之レ前第二十一條ノ後ノ場合ト殆ント同一ノ事ナリトス之レ毎年度ノ豫算ヲ立ツヿ能

ハサルモノナレハナリ

第二十三條　誤拂過度トナリタル金額ノ返納出納ノ完結シタル年度ニ屬スル收入及其ノ他一切豫算外ノ收入ハ總テ現年度ノ歳入ニ組入ルヘシ但シ法律勅令ニ依リ前金渡概算渡繰替拂ヲ爲シタル場合ニ於ケル返納金ハ各々之ヲ仕拂ヒタル經費ノ定額ニ戻入ルヽコトヲ得

［註］本條ハ豫算外ノ收入並ニ戻入ノ場合ヲ示ス

本條ノ如キ豫算外ノ收入金ハ假令前年度又ハ前々年度ノ分タリトモ現ニ收入シタル年度ノ歳入ニ組入ルヘシ蓋シ前年度ハ既ニ計算濟トナリタルカ爲メニシテ若シ之ヲ其場合ニ一々返納又ハ收入スルトキハ他ノ計算上ニ差響ヲ生スルカ故ナリ

併シナカラ但シ書ノ如キ場合ハ原トヨリ假リニ拂ヒ渡シタルモノナレハ其年度ニ於テモ算計ハ假リニ爲シアルモノニシテ結局シアラサルカ故返納金アルトキハ各之ヲ仕拂ヒタル分ニ戻入レ局ヲ結フヘシ然ラサレハ假計算ニシテ決算トナルカ如キ不都合ヲ生スレハナリ

第八章　政府ノ工事及物件ノ賣買貸借

［註］本章ハ政府ノ工事ヲ受負ハシ又ハ物件ノ賣買貸借ノ事ヲ規定ス

第二十四條　法律勅令ヲ以テ定メタル場合ノ外政府ノ工事又ハ物件ノ賣買貸借ハ總テ公告シテ競爭ニ付スヘシ但シ左ノ場合ニ於テハ競爭ニ付セス隨意ノ約定ニ依ルコトヲ得ヘシ

第一　一人又ハ一會社ニテ專有スル物品ヲ買入レ又ハ借入ルヽトキ

第二　政府ノ所爲ヲ秘密ニスヘキ場合ニ於テ命スル工事又ハ物品ノ賣買貸借ヲ爲ストキ

第三　非常急遽ノ際工事又ハ物品ノ買入借入ヲ爲スニ競爭ニ付スル暇ナキトキ

第四　特種ノ物質又ハ特別使用ノ目的アルニ由リ生産製造ノ場所又ハ生産者製造者ニ直接ニ物品ノ買入ヲ要スルトキ

第五　特別ノ技術家ニ命スルニ非サレハ製造シ得ヘカラサル製造品及機械ヲ買入ルヽトキ

第六　土地家屋ノ買入又ハ借入ヲ爲スニ當リ其ノ位置又ハ構造等ニ限アル場合

第七　五百圓ヲ超エサル工事又ハ物品ノ買入借入ノ契約ヲ爲ストキ

第八　見積價格二百圓ヲ超エサル動産ヲ賣拂フトキ

第九　軍艦ヲ買入ルヽトキ

第十　軍馬ヲ買入ルトキ

第十一　試驗ノ爲ニ工作製造ヲ命シ又ハ物品ヲ買入ルヽトキ

第十二　慈惠ノ爲ニ設立セル救育所ノ貧民ヲ傭役シ及其ノ生産又ハ製造物品ヲ直接ニ買入ルヽトキ

第十三　囚徒ヲ傭役シ又ハ囚徒ノ製造物品ヲ直接ニ買入ルヽトキ及政府ノ設立ニ係ル農工業場ヨリ直接ニ其ノ生産又ハ製造物品ヲ買入ルヽトキ

第十四　政府ノ設立シタル農工業場又ハ慈惠教育ニ係ル各所ノ生産製造物品及囚徒ノ製造物品ヲ賣拂フトキ

〔註〕本條ハ政府ノ工事又ハ物件賣買貸借ノ場合ヲ示シタルモノトス

法律勅令ヲ以テ定メタル場合卽チ本條第一乃至第十四ノ如キ場合ヲ除ク外ノ政府ノ工事又ハ物件ノ賣買貸借ハ總テ之ヲ公告シテ競爭ニ付スルモノナリ而シテ其競爭ニ付セサルモノハ隨意ニ政府ト約定シテ工事ヲ受負ヒ又ハ物品ノ賣買貸借スルモノトス

競爭トハ卽チ或ハ入札ヲ以テ落札シ又ハ糶賣ヲ爲スコトモアル可シ所謂工事又ハ借入買入等ノ時ハ可成安價ヲ尊ヒテ政府之レヲ處置シ賣拂貸渡等ノ如キハ可成的高價ヲ望之レヲ處置スルカ如ク人民ニ於テモ之レヲ爭ヒテ借入レ貸與ヘ受負フヘキ事柄ヲ云フ

列記セルモノハ或ハ競爭スルトキハ不案内ナルモノニ落札シ又ハ其物件ニ依リ生産地ヲ望ミ場所ヲ好ミ又ハ手數ヲ厭ヒ非常ノ場合等種々アル可シ明文ヲ讀ンテ其場合ヲ知ルヘシ

第二十五條　軍艦兵器彈藥ヲ除ク外工事製造又ハ物件買入ノ爲ニ前金拂ヲ爲スコトヲ得ス

〔註〕本條ハ必要ナルモノヽ内殊ニ場合ニ於テハ寸時ヲ爭フヘキ軍艦兵器彈藥等ノ外ハ前金拂ヲ以テ爲スヘカラサルモノトス

第九章　出納官吏

〔註〕本章ハ出納ノ官吏ノ掌ル事柄ヲ示ス

第二十六條　政府ニ屬スル現金若ハ物品ノ出納ヲ掌ル所ノ官吏ハ其ノ現金若

ハ物品ニ付一切ノ責任ヲ負ヒ會計檢査院ノ檢査判決ヲ受クヘシ

「註」本條ハ官吏ノ責任アルヿヲ示ス

政府ニ屬スル現金若ハ物品ノ出納ヲ掌ル所ノ官吏ハ其現金若ハ物品ニ付テハ一切ノ責任アリ而シテ會計檢査院ノ檢査判決ヲ受クルモノトス若シ責任ナシトセハ危險之レヨリ甚シキモノナシトス

第二十七條　前條ノ官吏水火盜難又ハ其ノ他ノ事故ニ由リ其ノ保管スル所ノ現金若ハ物品ヲ紛失毀損シタル場合ニ於テハ其ノ保管上避ケ得ヘカラサリシ事實ヲ會計檢査院ニ證明シ責任解除ノ判決ヲ受クルニ非サレハ其ノ負擔ノ責ヲ免ルヽコトヲ得ス

「註」本條ハ官吏ノ責任ヲ免ルヽ場合ヲ示ス

天災事變其他意外ノ變ニ依リ避クヘカラサル場合ニ在テハ其責任ヲ免カルヽヿ蓋シ理ノ當然ニシテ責任ヲ負フ處ノ官吏ト雖ヒ亦然リトス併シナカラ此責任ヲ脱スルニハ保管上避クヘカラサリシ事實ノ證明ヲ爲スノ義務アリ

而シテ其事實ヲ證明シ會計檢査院ノ責任ヲ解除スルノ判決ヲ受ケサルヘカラス之レ前第廿六條ノ結果タリ果シテ其判決ヲ得ハ假令責任官吏ト雖ヒ之レヲ免レ負擔ノ義務ナキモ其判決上責任解除ニアラサルトキハ負擔ノ責ヲ免ルヽヿ能ハサルノミナラス懲戒ノ罰ヲ受ク決シテ免レサルナリ

第二十八條　現金又ハ物品ノ出納ヲ掌ル ニ付身元保證金ヲ納メシムルコトヲ要スルモノヲ勅令ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

「註」本條ハ身元保證金ヲ要スルモノヲ示ス

本條ヲ設ケタルノ主意ハ負擔責任ノ場合ニ於テ政府ノ損失ヲ來サンヿヲ恐レテ身元保證金ヲ出サシム彼ノ貯金又ハ爲替ヲ取扱ハシムル郵便局長ノ如シトス

第二十九條　仕拂命令ノ職務ハ現金出納ノ職務ト相兼ヌルコトヲ得ス

「註」本條ハ所謂自畫自讃ヲ防クニアリトス仕拂命令ノ職務ヲ以テ仕拂ヲ命シテ自ラ又其命令ニ依テ現金ヲ出納スルカ如キ實ニ不都合ニシテ或ハ犯罪者ヲ出スノ恐レアリ會計上ノ嚴正ヲ失スルノ嫌ヒアレハナリ

第十章　雜則

二十三　第三十條　特別ノ須要ニ因リ本法ニ準據シ難キモノアルトキハ特別會計ヲ設

置スルコトヲ得

特別會計ヲ設置スルハ法律ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

「註」本條ハ特別會計法ヲ設クルヿヲ定ム

特別會計法ハ法律ヲ以テ特別ノ須要ニ因ル場合ニ設置セラルヽナリ之レ本法ニ準據シ難キヿアルニ之レ因ル

第三十一條　政府ハ國庫金ノ取扱ヲ日本銀行ニ命スルヿヲ得

「註」本條ハ國庫金取扱ヲ政府之レヲ爲サスシテ日本銀行ニ之ヲ命ス之レ便利ヲ計リテナリ現今モ亦斯ノ如シ日本銀行ハ各地ニ代理店ヲ設ケ又之レヲシテ取扱ハシム

第十一章　附則

「註」本法施行ニ付テノ規則ヲ定メタリ

第三十二條　本法ノ條項帝國議會ニ關渉セサルモノハ明治二十三年四月一日ヨリ施行シ其ノ關係スルモノハ帝國議會開會ノ時ヨリ施行ス

決算ニ係ル條項ハ帝國議會ノ議定ヲ經タル年度ノ歳計ヨリ施行ス

「註」本條ハ施行ニ於テノ時間ヲ定ム

帝國議會ニ關渉セサル條々ハ會計年度ノ初メナル四月一日ヨリ施シ其他關渉スルモノハ同會開會ヨリ施ス

決算ニ係ル分ハ帝國議會ノ議定シタル年度ノ歳計ヨリ施行シ夫マテハ從前ノ如ク卽チ現行ノ如ク施行スルモノナリ

第三十三條　本法ノ條項ト抵觸スル法令ハ各〻其ノ條項施行ノ日ヨリ廢止ス

「註」本條ハ抵觸スル二個ノ法令アルヿナキヲ必ス一ハ之レヲ廢止ス而シテ後ノ法令ヲ以テ先ノ法令ヲ止ムハ之レ當然ナリトス

○貴族院令

「註」本令ハ憲法第三十三條ニアル帝國議院ノ成立ノ一ナル貴族院ノ同法第三十四條ニアル組織スヘキ議員ノ資格其他ノ條規ヲ規定セラレタル勅令ナリトス其詳細ノ事ハ本條ニ入リテ知ルコトヲ得可シ

第一條　貴族院ハ左ノ議員ヲ以テ組織ス

一　皇族

二　公侯爵

三　伯子男爵各々其ノ同爵中ヨリ選擧セラレタル者

四　國家ニ勲勞アリ又ハ學識アル者ヨリ特ニ勅任セラレタル者

五　各府縣ニ於テ土地或ハ工業商業ニ付多額ノ直接國稅ヲ納ムル者ノ中ヨリ一人ヲ互選シテ勅任セラレタル者

「註」本條ハ憲法第三十四條ニアル處ノ明文ニ依リ其議員ノ種類ヲ示サレタリ

貴族院ハ帝國議會ノ一ニシテ衆議院ト相對シ一ハ　天皇陛下ノ御血統又ハ爵位者又ハ勅任ノモノヨリ成立シテ上ニアリ一ハ臣民ノ選擧ニ依リテ當選シタルモノヨリ成立シテ下ニアリ之

レ歐米各國ノ國會ニ上院下院アルト同權衡ナリトス

貴族院ノ議員ハ本條第一乃至第五ノ人々ヲ以テ組織セラルヽモノトス

就中第三ノ伯子男ノ二爵ニ就テハ皆議員ト爲ルニアラスシテ同爵中即チ伯爵中ヨリ子爵中ヨリ男爵中ヨリ選擧シ當選セラレタル方々ヲ以テ議員トシ第四及第五ノ如キハ皆勅任ニ依リテ命ヲ受ケ第五第六條ニ於テ其資格ヲ定メラルモノトス

第二條　皇族ノ男子成年ニ達シタルトキハ議席ニ列ス

[註] 本條ハ皇族ノ議員ト爲ラセ玉フヘキ資格ヲ定メラレタルモノナリ

皇族ノ議員トナラセ玉フヘキハ其成年トナラレタルトキヨリナリトス而シテ皇族ノ方々ニ於テモ皆男子ニシテ女子ハ之レカ資格ヲ與ヘサセラレサルモノトス

議席ニ列ストハ議員ノ資格ヲ有セラレ貴族院議會ニ列セラルヽノ權利ヲ有シ玉フモノナリトス之レ他ノ臣民トハ大ニ異ナル處ニシテ第三條以下ニ於テ其差アルコトヲ知ル可シ

成年トハ今日現行ノ法律ニ在テハ滿二十一歲ヨリ丁年ト爲ストノ事ナレトモ此法律ニ依レル成年トハ皇室典範ニヨリ滿二十歲ト爲サセラタリ

第三條　公侯爵ヲ有スル者滿二十五歲ニ達シタルトキハ議員タルヘシ

[註] 本條ハ第一條第二ノ場合ニ付議員タル資格ヲ有スヘキ時ヲ示サレタリ

公侯爵ヲ有スル方々ハ滿二十歲ニ達シタルトキヨリ議員ノ資格ヲ有シ直ニ議會ニ列スルモノナリ

皇族ノ方々トハ其歲齡ニ差アリトス又公侯爵ノ方々ハ議員タルヘキノ勅令上有スル權利ナレトモ皇族ノ方々ニ在テハ勅令上ニアラスシテ御身上固有ニ有セラルヽモノト知ルヘシ

皇族ノ方々ノ如ク本條ニハ男子ノ文字ナシ蓋シ公侯爵ハ女子ノ得ヘキ榮位ニアラス必ス男子タルヘキモノナレハ更ニ其文字ヲ加フルノ必要ナシ

第四條　伯子男爵ヲ有スル者ニシテ滿二十五歲ニ達シ各々其ノ同爵ノ選ニ當リタル者ハ七個年ノ任期ヲ以テ議員タルヘシ其選擧ニ關ル規則ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

前項議員ノ數ハ伯子男爵各々總數ノ五分ノ一ヲ超過スヘカラス

[註] 本條ハ第一條第三ノ場合ヲ規定セラレタリ

伯子男爵ヲ有スル人々ニシテ滿二十五歲ニ達シタル當選シタルモノハ七個年ノ任期ヲ以テ議員タルモノナリ

其選擧ノ規則ハ別ニ勅令ヲ以テ定メラルレハ未タ豫メ知ルコト能ハサルナリ

其當選シタル議員ノ數ハ伯子男爵各々總數ノ五分ノ一ヲ超過スルヿナシトス假令ヘハ茲ニ伯爵ノ方々百人アリトセハ其五分ノ一タル二十人ヨリ超過セスシテ二十人マテニテ伯爵ノ議員或ハ十五人或ハ十九人ノ如ク其他ノ爵ニ於テモ亦同一ナリトス之レ蓋シ皇族又ハ公侯爵者ヨリ多カランヿヲ防クモノトス

第五條 國家ニ勳勞アリ又ハ學識アル滿三十歲以上ノ男子ニシテ勅任セラレタル者ハ終身議員タルヘシ

〔註〕本條ハ第一條ノ第四ノ場合ヲ示サレタリ

第三條第四條ハ其爵位ニ依リテノ議員ニシテ本條ハ勳勞又ハ學識ニ依リテノ議員ナリ

本條勅任議員ハ終身其議員タルモノナリ之レ勳勞又ハ學識等實ニ國家ノ爲メ經驗ノ爲メナレハ之レニ年限ヲ付セサルモノナリ殊ニ他ノ議員ノ如ク其同等ノ地位ヲ占ムル者多キニアラサレハ不公平ノ事ナシ第四條ノ如キ第六條ノ如キハ多クアル人々ヨリ選拔スルモノナレハ平均ヲ保ツカ爲メ又ハ其同種類ノ人物ヲ拔ク爲メニ年限ヲ付シテ各々交代スル餘地ヲ與ヘラレタルモノナリトス

第六條 各府縣ニ於テ滿三十歲以上ノ男子ニシテ土地或ハ工業商業ニ付多額ノ直接國稅ヲ納ムル者十五人ノ中ヨリ一人ヲ互撰シ其選ニ當リ勅任セラレタル者ハ七箇年ノ任期ヲ以テ議員タルヘシ其ノ選擧ニ關スル規則ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

〔註〕本條ハ第一條第五ノ場合ヲ規定セラレタリ

此勅任ノ議員ハ各府縣ニ於テ左ノモノヽ十五人ノ中ヨリ一人ヲ互撰シ其當選者ヲ以ヲ充ルモノトス

第一　滿三十歲以上ノ男子タルヿ

第二　土地或ハ工業商業ニ付多額ノ直接國稅ヲ納ムル者

假令ヘハ茲ニ大坂府ニ於テ右ノ二要件ヲ具備シタルモノ一々其多額者ヨリ順序ニ之レヲ記シ算ヘテ第十五番ノ多額納稅者マテヲ以テ打切リ其他ハ捨テ以上ノ十五番マテ卽チ十五人ヲ以テ勅任議員トナルヘキ資格ヲ有スル者トシ十五人互ニ撰ミテ候補者ヲ出スモノナリ其選擧ニ關スル規則ハ別ニ勅令ヲ以テ定サセラルヽモノトス故ヲ以テ考フレハ各府縣ニ一人宛ノ割合トナルカ如シト雖トモ第七條ニ依レハ有爵議員ノ數ヨリ超過スルヿヲ得サレハ或ハ有爵者ノ

議員各府縣ノ數ヨリ少ナキトキハ本條ノ議員ハ尚ホ其中ニ於テ互撰スヘキヤ右ハ勅令ヲ待テ知ルヿヲ得ヘシ

第七條　國家ニ勲勞アリ又ハ學識アル者及各府縣ニ於テ土地或ハ工業商業ニ付多額ノ直接國稅ヲ納ムル者ヨリ勅任セラレタル議員ハ有爵議員ノ數ニ超過スルコトヲ得ス

「註」本條ハ其議員ノ數ヲ制限セリ

超過ヲ防クハ第四條末段ニ於テ解キタルカ如ク上ノ方々ヨリ超ユルトキハ爲メニ他ヲ制スルノ恐レアレハアリ

第八條　貴族院ハ天皇ノ諮詢ニ應ヘ華族ノ特權ニ關ル條規ヲ議決ス

「註」本條ハ貴族院ノ權限ヲ定メラレタリ

貴族院ハ　天皇陛下ノ御諮詢ニ對シテ應ヘ奉リ又ハ華族方ノ特權ニ關スル條規ヲ議決スル處ナリトス

本條ヲ以テ見レハ從來解キ去リタル法律ノ事ハ別ニ議決スル權限外ナルカ如シト雖モ然フス憲法上第三十八條ニ明文アリ且第十二條ニ於テモ議院法ニ依ルノ明文アレハ法律ヲ議決スル

ノ權アルハ勿論ナリ

特ニ本條ノ如キ權限ヲ有スル事ト知ルヘシ

第九條　貴族院ハ其ノ議員ノ資格及選擧ニ關スル爭訟ヲ判決ス其ノ判決ニ關ル規則ハ貴族院ニ於テ之ヲ議定シ上奏シテ裁可ヲ請フヘシ

「註」本條ハ貴族院ノ裁判權アルヿヲ示サレタリ

貴族院ハ貴族院ノ議員ノ資格及ヒ選擧ニ關ル爭訟ヲ判決スルノ權アリ

其判決スル手續ニ關ル規則ハ貴族院ニ於テ之ヲ議定シ上奏シテ裁可ヲ請フヘシ蓋シ貴族院ハ常ニ　天皇陛下ニ從屬スルモノナレハナリ

第十條　議員ニシテ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ身代限ノ處分ヲ受ケタル者アルトキハ勅命ヲ以テ之ヲ除名スヘシ

貴族院ニ於テ懲罰ニ由リ除名スヘキ者ハ議長ヨリ上奏シテ勅裁ヲ請フヘシ」

除名セラレタル議員ハ更ニ勅許アルニ非サレハ再ヒ議員トナルコトヲ得ス

「註」本條ハ議員除名セラルヽ場合ヲ示サレタリ

第一項　議員ニシテ左ノ條件ニ當ルモノハ勅命ヲ以テ除名セラルヽモノトス

一　禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルモノ

二　身代限ノ處分ヲ受ケタルモノ

第二項　貴族院ニ於テ議院法第九十六條ノ除名第九十九條ノ除名ノ場合ニ在テハ議長ヨリ其旨ヲ上奏シテ勅裁ヲ請フヘキモノトス而シテ裁可アルマテハ其議員ハ出席スルヿヲ停止セラル可シ

第三項　衆議院ニ於テ除名セラレタルモノ再選ニ當ルトキハ之ヲ拒ムヿヲ得スシテ更ニ議員タルヲ得ヘキハ議院法第九十七條ニアリ蓋シ臣民ヲシテ滿足セシメラル、ノ慈惠タリ然ルニ貴族院ニ於テハ更ニ勅許アルニアラサレハ再ヒ議員トナルコトヲ得ス蓋シ勅許ヲ得テ議員トナリタルモノ又ハ勅令上ノ性質ニ依レル議員タリトモ一旦除名ノ勅命アレハ假令次會ニ於テモ更ニ勅命アラサレハ再ヒ議員トナルヿヲ得ス之レ衆議院議員ト異ナル處ナリトス

第十一條　議長副議長ハ議員中ヨリ七個年ノ任期ヲ以テ勅任セラルヘシ

被選議員ニシテ議長又ハ副議長ノ任命ヲ受ケタルトキハ議員ノ任期間其ノ職ニ就クヘシ

「註」本條ハ議長副議長ノ任期ヲ定メラレタリ

貴族院ノ議長副議長ハ議員中ヨリ勅任セラレ其任期ハ七ヶ年アリトス之レ第二條第三條第五條ノ議員ニ付テ必要ナル規定トス而シテ本條ノ第二項ノ明文ハ被選議員即チ第四條第六條ノ議員ニ必要ナル規則ニシテ議長又ハ副議長ノ任命ヲ受ケタルトキハ其議員ノ任期間即チ矢張七ヶ年間議長又ハ副議長ノ職ニ就クヘキモノトス

第十二條　此ノ勅令ニ定ムルモノヽ外ハ總テ議院法ノ條規ニ依ル

「註」本條ハ此勅令ニモ議院法ヲ適用シ玉フ事ヲ記載セラレタリ

議院法中帝國議會、各議院、両議院等ノ文字アルモノハ皆貴族院、衆議院ヲ總稱セラレタルモノナレハ皆此條ニ依リ貴族院ニモ通シ用ユルモノナリトス

第十三條　將來此ノ勅令ノ條項ヲ改正シ又ハ增補スルトキハ貴族院ノ議決ヲ經ヘシ

「註」本條ハ貴族院令中ノ條項ヲ改正シ又ハ增補スルトキハ議決ヲ經テ之レヲ自由ニ爲スノ權ヲ貴族院ニ與ヘラレタルモノトス

衆議院ニ在テハ此場合ハ或ハ動議ヲ起シ又ハ上奏ヲ經テ議セサルヘカラサルモノト考フ

九、〇終リニ望ミ第二條ノ皇族云々ノ其皇族ノ列次ヲ知ルハ必要ナリト考フルヲ以テ左ニ宮内省達ヲ

十示ス

○宮内省達第二號

皇族列次ハ實系ノ遠近ニ從ヒ　皇位繼承ノ順序ニ依ル但シ親王叙品宣下アリシ者ニ限リ特殊ノ席次ヲ以テシ一般ノ列次左ノ通定ム

熾仁親王
晃親王
彰仁親王
貞愛親王
朝彦親王
能久親王
威仁親王
載仁親王
依仁親王
栽仁親王
邦芳王
博恭王
菊麿王
成久王
恒久王
輝久王
邦憲王
邦彦王
守正王
多嘉王
鳩彦王
稔彦王

明治二十二年二月十一日

宮内大臣子爵土方久元

明治廿二年三月廿五日印刷
同　年四月廿六日出版
（定價金五十錢）

發行者　大阪東區本町四丁目百五十四番屋敷　岡島眞七
編述者　兵庫縣丹波國多氣郡篠山北新町五十二番地寄留　樋山廣業
印刷者　大阪東區南久寶寺町四丁目廿一番屋敷　岡島幸次郎
發賣者　同　南久寶寺町四丁目廿一番屋敷　岡島寶文館
同　同　備後町四丁目三番地　岡島支店
同　東京日本橋區通三丁目八番地　岡島支店

東京賣捌書肆

日本橋通壹丁目	北畠茂兵衛
同　通二丁目	稲田佐兵衛
同　通壹丁目	大倉孫兵衛
同　通三丁目	丸善書店
銀座四丁目	博聞社
日本橋西川岸	須原屋茂兵衛
横山町三丁目	辻聞書店
馬喰町弐丁目	石川鐵兵衛
神田通新石町	福岡治助
南傳馬町壹丁目	吉屋文七
大門通元大坂町	川田仙藏
京橋區南紺屋町	小林喜右衛門
本町四丁目	神戸甲子二郎
日本橋通四丁目	杉本七百九
三十間堀壹丁目	春陽堂
日本橋區橋町	九春聲社
南傳馬町三丁目	鶴成堂
神田淡路町	松字堂
木挽町壹丁目	巖々堂
日本橋長谷川町	萬泉堂
	榮社

西京賣捌書肆

東洞院三條上ル	村上勘兵衛
河原町二條下ル	大黒屋書店
寺町通二條下ル	梅原支店
同所	河合卯之助
寺町通御池下ル	佐々木惣四郎
寺町通三條上ル	清水幾之助
同町	細川清助
同町	竹岡文祐
三條通寺町東入	福山源郎
同	藤井孫次郎
御寺町御池下ル	中井勘兵衛
三條通寺町西入	大本甚助
三條通御幸町角	杉谷仁兵衛
三條通富小路東入	磨勘兵衛
寺町通四條上ル	中治兵衛
寺町綾小路下ル	勝德次郎
寺町通松原下ル	山枝龜太郎
佛光寺烏丸東入	内吉兵衛
五條高倉西入	東原彦太郎
四六條花屋町	小笠原左衛門
	永田長太郎

各縣賣捌書肆

播州姫路俵町	山本庄輔
同　米田町	野長又二
讃岐高松南新町	龜友國吉
同　豐田郡觀音村	安藤藏
伊豫松山濱町	玉井新平
同　宇和島本町	上田治郎
備前岡山仲之町	森長太郎
備後尾ノ道土堂町	三木藏
藝州廣島横町	松村助
防州三田尻	西村善助
同　山口中市町	宮川半兵衛
同　大市町	松村虎之助
同　中市町	白石臣吉
長門豐浦中濱町	村谷貴平
同　萩瓦町	松原傳郎
同　馬關赤間町	西尾喜三郎
肥州長崎酒屋町	安商兵衛
同　佐賀新馬場	中籍店
肥後熊本新二丁目	半三郎
鹿兒島十日市町	長崎會社
	吉田次郎
	幸兵衛

大阪賣捌書肆

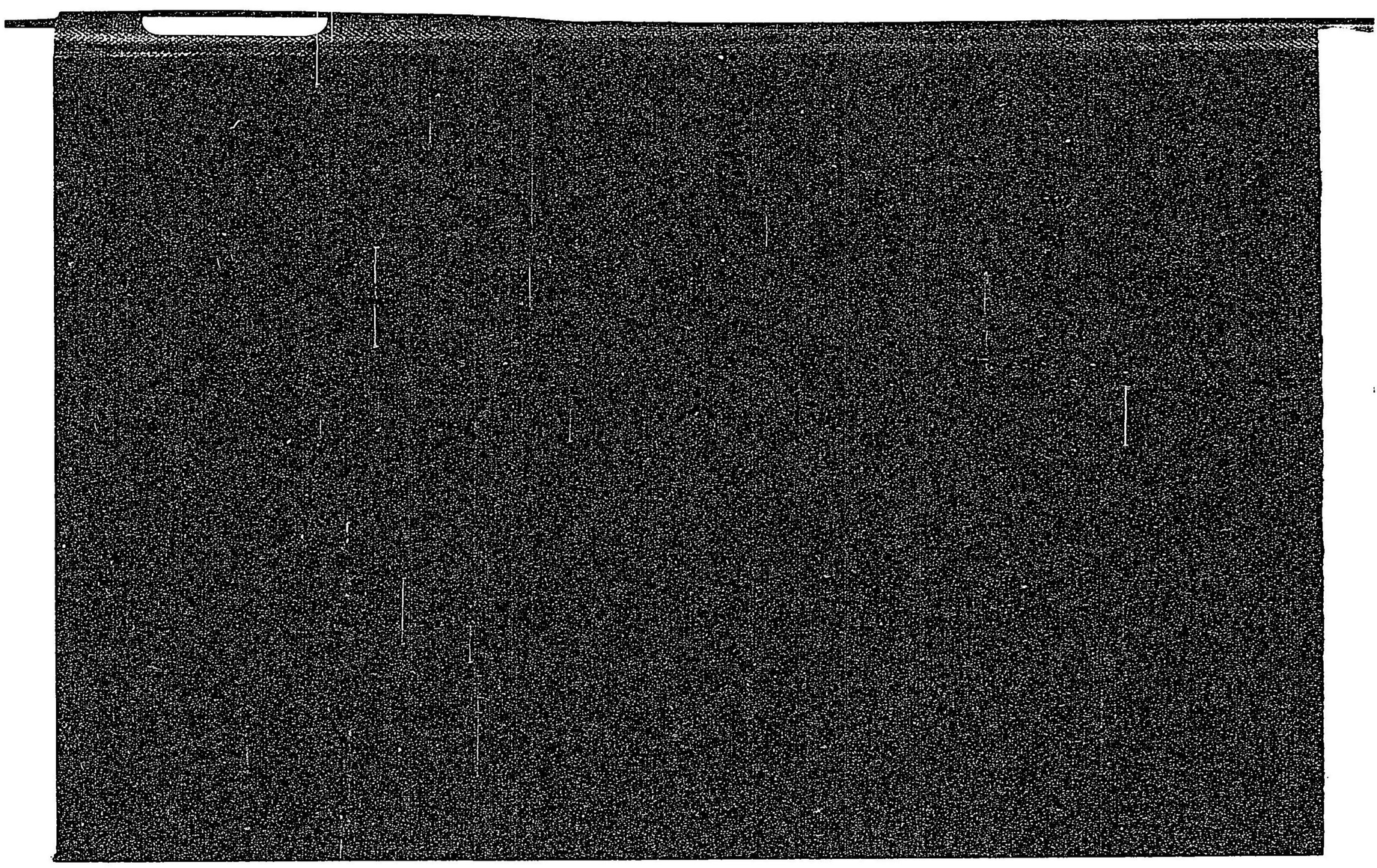
心齋橋南一丁目	松村九兵衛
同北詰北入	駿々堂
同安堂寺町南へ入	田中太右衛門
同安堂寺町南へ入	青木恒三郎
同駒屋町南へ入	兎屋支店
同順慶町北へ入	此村庄助
同博勞町南へ入	中川勘助
同博勞町角	岡田茂兵衛
同南久寶寺町北入	前川善兵衛
同北久寶寺町角	三木佐兵衛
同北久太郎町北入	柳原喜兵衛
同唐物町北へ入	岡本仙助
同本町北へ入	赤志忠七
同安土町南へ入	鹿田静七
同備後町角	吉岡平助
同備後町北へ入	梅原龜社
同備後町東へ入	博聞分七
高麗橋二丁目	熊谷幸助
長堀橋南詰南へ入	眞部武助
天神橋通松屋町	湯川孫兵衛

各縣賣捌書肆

尾州名古屋本町　片野東四郎
同　本町三丁目　川瀨代助
同　本町二丁目　石澤吉三郎
同　本町七丁目　小輪文治郎
同　鉄砲町二丁目　三橋平左衛門
同　稻置　市桝屋喜太郎
信州長野善光寺　小見甚左衛門
信州松本本町二　高須廣治
三州豊橋呉服町　高廣市造
駿州静岡江川町　瀨田太郎
加州金澤上堤町　近益智三郎
同　片町　宇都宮源平
同　小松京町　内藤傳右衛門
甲州甲府常盤町　溝江八男太
越前福井錦上町　岡崎左喜助
同　照手上町　川島九右衛門
勢州津大門町　中西嘉助
同　松坂日野町　有文堂
同　山田八日市町　伊藤善太郎
同　四日市南町

各縣賣捌書肆

濃州大垣岐阜町　岡安慶助
同　岐阜米屋町　三浦源助
江州大津丸屋町　澤宗平郎
同　大津升屋町　小次郎
同大津京町五丁目　古儀助
同大津京町二丁目　澤伊平郎
同　彦根土橋町　廣川郎
同彦根西内大工町　田儀郎
同　長濱御堂前　中治郎
同八幡新町二丁目　大伍六
和歌山本町二丁目　平藤助
同　小野町二丁目　野幾門郎
同　東長町五丁目　瀨文吉郎
泉州堺神明町　鈴木左衛門
同　甲斐町東一丁　鈴久二郎
同　岸和田北町　本條吉郎
播津茨木　橋三郎
同　西ノ宮久保町　吉治郎
同神戸元町五丁目　船井三郎
但馬豊岡背田町　由本郎
利政常庄助
安太三治助



特16
638

大日本帝国憲法釈義

国立国会図書館

031661-000-5

特16-638

大日本帝国憲法釈義

樋山　広業／著

M22

BBE-0288